

<論文>

## 大学生におけるSNS上の親密さと「闇バイト」に対する危惧感

浅野 晴 哉

本研究は、大学生を対象に、自己開示の観点からSNS上の相手との関係性（「閲覧のみ」「他愛もない会話」「個人情報開示」「深刻な悩み相談」）における闇バイトへの危惧感と性別及び楽観性との関連について検討した。その結果、「高収入」「荷物受取」という闇バイトの誘いに対する危惧感は、SNS上の相手に「深刻な悩み相談」ができるほど親密な関係になると、他の関係性より低くなることが明らかとなった。また、女性は男性より「閲覧のみ」「他愛もない会話」という浅い関係性において高くなるが、「個人情報開示」「深刻な悩み相談」という深い関係性においては差が見られなかった。一方、楽観性においては、関連が見られなかった。以上のことから、闇バイトへの誘いに対する危惧感は、SNS上において悩みを相談できるような親密な関係になると減少する。つまり、大学生等の若年者は、SNS上において親密な関係、すなわち絶大な信頼を向けた相手からの誘いであるため、自ずと危惧感が減少し、ひいては加担してしまうことが推察された。よって、防止策としては、これらSNS上の対人関係の特徴を取り入れた心理教育の実施が急務と考えられる。

Keywords：大学生、闇バイト、SNS上の関係性、自己開示、危惧感

### 問題と目的

#### 問題

犯罪対策閣僚会議は、「世界一安全な国、日本」を目指すために、内閣総理大臣が主宰するものである。同会議は、令和に入ると立て続けにいわゆるオレオレ詐欺や闇バイトを含めた特殊詐欺等への対策を講じている。具体的には、2014年において親族を装い被害者に現金を振り込ませるなどの「オレオレ詐欺」等特殊詐欺の被害総額が約566億円となっており、これを受けて2019年（令和元）年6月には、その被害者となる高齢者を守るための「オレオレ詐欺等対策プラン」を策定した（犯罪対策閣僚会議，2019）。間もなくして「闇バイト強盗」という被害者を拘束した上で暴行を加え、死に至らしめるなどの凶悪な事件が多発したため、2023年3月には「SNSで実行犯を募集する手口による強盗や特殊詐欺事案に関する緊急対策

プラン」を策定した（犯罪対策閣僚会議，2023）。同プランは、先の高齢者被害防止対策に加えて「青少年をアルバイト感覚で犯罪に加担させない教育・啓発」を掲げ、小中高校及び大学生を含めた防止策を推進した。しかし、同年中の詐欺被害額が前年比から倍増の約1,630億円、またSNS型投資・ロマンス詐欺の被害額が約455億円で特殊詐欺の被害額約453億円を上回り、翌2024年6月には特殊詐欺に限定せず「被害に遭わせない」「犯行に加担させない」「犯罪者のツールを奪う」「犯罪者を逃がさない」という「国民を詐欺から守るための総合対策」を策定した（犯罪対策閣僚会議，2024a）。さらに青少年が闇バイトに加担する実態を鑑み、同年12月に「いわゆる「闇バイト」による強盗事件等から国民の生命・財産を守るための緊急対策」を示した（犯罪対策閣僚会議，2024b）。中でも、全ての大学に学生が闇バイト等犯罪に加担することがないように周知啓発を求め、犯罪実行者に応募した者が犯行実行前に踏みとどまれるよう、警察による保護と実行前の相談を呼びかける動画を発信するなど踏み込んだ対策をした。その結果、同年11月末時点で125件を保護でき、青少年の闇バイト等への加担防止を図った（犯罪対策閣僚会議，2024b）。このように、近年の犯罪対策閣僚会議を検討すると、オレオレ詐欺、SNS利用の強盗等、闇バイト強盗等犯行態様の変化に即した対策を講じている。

読売新聞（2024）によると、闇バイト強盗逮捕者の8割が20代以下であるという。また、闇バイト等の加害者の実態として2025年1月に開催された総務省所管の「デジタル空間における情報流通の諸課題への対処に関する検討会（第3回）」警察庁資料（2025）によると、2024年8月以降の関東地方における被害者を死傷させた闇バイト強盗等事件実行犯の多くが20歳代以下の若年層であった。さらに、2024年1月から10月までに検挙された被疑者1,650人を対象に分析したところ、加担した経緯は、SNSからの応募が42.5%、知人等紹介が32.2%、不明15.5%、その他3.3%、求人情報サイト2.8%、インターネット掲示板1.1%、やみ金0.5%であった。つまり、SNSからの応募が最も多く、次に知人等紹介であり、合わせると7割以上を占めている。これらの実態を鑑みると、従来のインターネット掲示板や求人サイトにおける「高収入バイト」などの謳い文句に対する闇バイトへの注意喚起は一定の抑止効果が見られていると考えられる。しかし、このような若年層を闇バイトに加担させない施策を推進している中で、2025年に入り2人の高校生が「パソコンの特技を生かせる」「衣食住付きの簡単な仕事」と誘われ、ミャンマーの詐欺拠点に送り込まれ、タイ当局に保護された（河北新報，2025）。このことから、闇バイト等対策は未だ道半ばと言わざるを得ない。

闇バイト及び特殊詐欺に関する研究動向は、被害者の視点に立ったオレオレ詐欺被害者の社会的孤立感（原田・土屋，2025）や楽観バイアスが高齢者の特殊詐欺対策行動に及ぼす影響（木村他，2023）など有益な詐欺被害防止の要因について明らかにされている。一方、桐生（2023）は、特殊詐欺加害者が、Xなどをおし闇バイトに加担するなど見知らぬ同士である

という特徴について検討する必要性を指摘している。さらに、桐生（2024）は、その加担する背景として、現代社会における規範意識及び遵法意識の調査から、インターネットを介した不正行為はバレる程度をやや甘く判断する傾向が見られることを明らかにし、間接的ではあるものの、闇バイトについても不正と感じつつも発覚を低く見積もる傾向を有していることを示唆している。

これらのことから、若年層の SNS 利用の実態に即した闇バイトに加担させない施策が喫緊の課題と考えられる。よって、若年層が SNS 上における相手とどのような対人関係を有し、その相手との関係性によって闇バイトに対してどのような危惧感を抱いていくのかを明らかにすることが、若年層の闇バイトへの加担防止に寄与すると考えられる。

## 目的

犯罪対策閣僚会議においては、大学生を闇バイトに加担させない施策が重視されている。各都道府県警察の動向を鑑みると、例えば宮城県警察においては、2024年4月に大学生を含む若年層が闇バイト等特殊詐欺の「受け子」として加担するケースの増加に鑑み、宮城県内の大学・短期大学・大学校計20校と「学生を犯罪から守るための相互協力に関する協定書」を締結した（河北新報, 2024、;宮城学院女子大学, 2024）。さらに、筆者の所属する本学においては、2025年4月に2025年度学友会春季総会において宮城県警察による闇バイト防止に関する講演を設けるなど、同施策に沿った啓発を行っている（宮城学院女子大学, 2025）。これらの動向を踏まえ、本研究においては、10歳代後半から20歳代前半の若年層である大学生を調査対象者とする。そして、未だに検討がなされていない大学生における SNS 上での加害者と想定される相手との関係性により、その相手から闇バイトに関連した事項を誘われた際に、どの程度危惧感を持つのかを明らかにする。さらに、同種事案に加担し検挙された者については、警察白書（警察庁, 2024）や読売新聞（2024）等において性別の記載が見当たらない。しかし、これら事件の報道からは若年層の男性が多く見受けられるが、女性の加害者も検挙されている（読売新聞, 2025）。実際、大学生を同種犯罪に加担させないための教育を推進する際には、仮に加担する若年層の者が男性であることがほとんどであれば、男性及び女性という性差を明らかにし、その差異を予防教育に反映しなければならない。加えて、大学生を闇バイトに加担させないためには特殊詐欺犯罪組織からの闇バイトの誘いを危惧する個人要因について検討しなければならない。警察庁（2018）の特殊詐欺被害者調査によると、95.2%が自分は被害に遭わないと思っていたことが認められ、被害に遭う可能性を過小評価していた。この点について木村（2024）は、自分は同世代・同性の一般的な他者と比較して犯罪被害に遭う確率は低いと認知しやすく、自己のリスクを楽観視する傾向がある「楽観バイアス」が特殊詐欺対策を阻害する一つの要因として指摘している。楽観バイアス（optimistic bias）とは、自分

は他者と比較してポジティブなイベントに遭遇しやすく、ネガティブなイベントには遭遇しにくいと認知する思考の偏りである（Weinstein, 1980）。さらに、木村他（2018）はSNS利用リスクに関して高校生においても自己リスクの楽観視があることを指摘している。これらの指摘からは、特殊詐欺組織から闇バイトに加担するように言葉巧みに誘われる若年層においても、楽観バイアスと同様の心理から、最終的に闇バイトそして特殊詐欺組織に加担することが推察される。よって、若年層である大学生の抱く闇バイトへの危惧感に楽観性がどのように影響を与えているのかを検討しなければならない。これらの結果から、大学生等の若年層に対する闇バイトに加担させない在り方を提案することを最終的な目的とする。

### 予備調査

質問票を精査することを目的として、2024年11月に宮城県内の女子大学生43人（平均年齢20.01歳（ $SD = .97$ ））が、Google Formsにおける調査に参加した。回答の際には、調査への回答は任意であること、収集した情報は研究目的以外で使用されることはないこと等倫理的配慮を行った。

SNS上で関わった相手との関係性を「SNS上でお互いの投稿を見ているだけ」「趣味などの他愛もない会話」「自分の情報も織り交ぜながらの会話」「深刻な悩みを相談」の4場面を想定してもらい、闇バイトに関する質問（「高収入」「荷物を受け取る」「相手が闇バイトに関わった場合」「相手が闇バイトの被害者」）について6件法（1：全く危惧しない—6：非常に危惧する）で回答を求めた。なお、本質問項目は、筆者のゼミ内で大学生におけるSNS活用の実態を鑑みて、作成したものである。

結果の平均評定値は、Table1に示す。

予備調査結果について、筆者のゼミ内で検討したところ、質問項目については、「相手が闇バイトに関わった場合」が加害関係者又は被害関係者なのかなど不明確との指摘を受けた。改訂版楽観性尺度（坂本・田中, 2002）について回答を求めたところ、質問内容の一部が理解しにくいとの指摘を受けた。そのため、指摘事項を修正することとした。修正内容は、本調査

Table1 SNS上における関係性毎の闇バイトに対する危惧感の平均評定値（ $SD$ ） $N = 43$

項目	閲覧のみ	他愛もない会話	個人情報開示	深刻な悩み相談
高収入	5.09(0.98)	4.84(1.14)	4.63(1.40)	4.23(1.70)
荷物受取	5.14(1.07)	4.95(1.10)	4.77(1.33)	4.37(1.61)
関係者	4.14(1.49)	4.72(1.02)	5.28(.82)	5.51(.62)
被害者	4.91(1.27)	4.77(1.25)	5.26(.99)	5.33(.91)

の調査内容に示す。

## 本調査

### 方法

**調査対象者** 調査対象者は、宮城県在住の大学生 109 人を分析対象とした。平均年齢は 20.94 歳 ( $SD = 2.75$ ) であった。男子大学生が 35 人で平均年齢は 21.74 歳 ( $SD = 2.38$ )、女子大学生が 74 人で平均年齢は 20.55 歳 ( $SD = 2.86$ ) であった。

**調査期間と手続** 調査期間は、2024 年 12 月に株式会社マクロミルのセルフアンケートツール Questant にて回答フォームを作成してパネル調査を依頼し、回答者の属性は、「宮城県」の「10 代」と「20 代」の「男性」と「大学生」を指定した。また、同様の回答フォームを Outlook のメールエイリアス機能を用いて宮城県内の A 女子大学の 1~4 年生に一斉送信した。

**調査内容** 質問内容は、SNS 上における関係を想定してもらった後に、闇バイトに関する質問について回答を求めた。

星 (2023) によると、闇バイトに加担させる特徴として、加害者側が「闇バイト」に応募する者についての個人情報把握し、その情報を基に脅迫などにより「足抜け」させず、結果として犯罪行為を重ねさせるサイクルが完成していると指摘している。つまり、「闇バイト」に加担する際には、誘う側及び加担する側双方の共通事項は、「個人情報」と考えられる。よって、本研究においては、筆者のゼミ内で検討した結果、大学生が日常の SNS 上における個人情報を開示していく、いわゆる自己開示について注目し、

想定 1：一方的な閲覧のみ

SNS 上でお互いの投稿を見ているだけの関係性

想定 2：他愛もない会話

メッセージ機能などを使用し、趣味などの他愛もない会話をする関係性

想定 3：個人情報開示

メッセージ機能などを使用し、自分の情報も織り交ぜながら会話をする関係性

想定 4：深刻な悩み相談

メッセージ機能などを使用し、深刻な悩みを相談できる関係性

という対人関係進展の 4 つの段階を設定した。

闇バイトに関する質問内容は、想定ごとに、

- 1 高収入：相手から簡単で高収入のバイトがあると誘われた場合に、闇バイトの可能性があると危惧するか。
- 2 荷物受取：相手から荷物を受け取るだけのバイトがあると誘われた場合に、闇バイトの

可能性があるかと危惧するか。

3 加害者：相手が闇バイトの加害者だと知った場合に、どの程度の危機感を持つか。

4 被害者：相手が闇バイトの被害者だと知った場合に、どの程度の危機感を持つか。

に対して、6件法（①全く危惧しない、②あまり危惧しない、③やや危惧しない、④やや危惧する、⑤だいぶ危惧する、⑥非常に危惧する）で回答を求めた。予備調査で指摘を受けた「関係者」については、加害関係者に対する質問内容であったため、対象者に混乱を与えないように明確に「加害者」とした。

加えて、楽観性の測定については、改訂版楽観性尺度（坂本・田中，2002）に対して、5件法（①強くそう思わない、②そう思わない、③どちらでもない、④そう思う、⑤強くそう思う）で回答を求めた。また、筆者のゼミ内で難解であると指摘を受けた箇所は、項目2が文頭の「はっきりしないときでも」を削除、項目3が「概して」を「大概」、項目9が「それはきっとそうなるものだ」を「そうなるだろう」と大学生の視点を考慮し、主旨から外れない範囲で変更を加えた。なお、本楽観性尺度は、appendix に示す。

## 結果と考察

**SNS上の関係性における闇バイトに対する危惧感等** 大学生全体におけるSNS上の関係性による闇バイトに対する危惧感等を明らかにするため、4つの関係性ごとに設定した4つの回答における平均評定値に対して1要因4水準の分散分析を行った。その結果の平均評定値は、Table2 に示す。

「高収入」を分析したところ、主効果（ $F(1.108) = 20.88, p < .05$ ）が有意であったことから、下位検定としてBonferroniを実施したところ、「深刻な悩み相談」における平均評定値が「閲覧のみ」及び「個人情報開示」の同値よりも5%水準で有意に低かった。「荷物受取」を分析したところ、主効果（ $F(1.108) = 24.13, p < .05$ ）が有意であったことから、上記同様下位検定を実施したところ、「深刻な悩み相談」における平均評定値が「閲覧のみ」「他愛もない会話」及び「個人情報開示」の同値よりも5%水準で有意に低かった。「加害者」を分析したところ、主効果（ $F(1.108) = 36.50, p < .05$ ）が有意であったことから、上記同様下位検定を実施したと

Table2 SNS上における関係性毎の闇バイトに対する危惧感の平均評定値（SD） $N = 109$

項目	閲覧のみ	他愛もない会話	個人情報開示	深刻な悩み相談
高収入	4.91(1.23)	4.69(1.32)	4.67(1.35)	4.42(1.42)
荷物受取	5.04(1.22)	4.93(1.17)	4.87(1.23)	4.54(1.36)
加害者	4.84(1.33)	5.18(1.04)	5.37(.96)	5.35(.93)
被害者	4.67(1.31)	5.13(1.03)	5.26(1.05)	5.30(.97)

ころ、「閲覧のみ」における平均評定値が「他愛もない会話」「個人情報開示」及び「深刻な悩み相談」の同値よりも5%水準で有意に低かった。「被害者」を分析したところ、主効果 ( $F(1,108) = 35.83, p < .05$ ) が有意であったことから、上記同様下位検定を実施したところ、「閲覧のみ」における平均評定値が「他愛もない会話」「個人情報開示」及び「深刻な悩み相談」の同値よりも5%水準で有意に低かった。

以上のことから、全体の傾向としては、「高収入」「荷物受取」という闇バイトへの誘いに対しては、「深刻な悩み相談」になると、危惧感が低くなると考えられる。一方、SNS上の相手が闇バイトの「加害者」「被害者」と認知した場合には、「閲覧のみ」は、他の関係性より、危機感が低くなることが明らかとなった。

**SNS上の闇バイトに対する危惧感等と性別との関係** 大学生におけるSNS上の関係性による闇バイトに対する危惧感等と性別との関係を明らかにするため、4つの関係性（閲覧のみ、他愛もない会話、個人情報開示、深刻な悩み相談）×性別（男性群、女性群）の2要因混合計画の分散分析を行った。その結果の平均評定値は、Table3に示す。

「高収入」を分析したところ、関係性 ( $F(3, 321) = 1.45, n.s.$ ) 及び性別 ( $F(1, 107) = 3.88, n.s.$ ) の主効果において有意な差は見られなかった。関係性×性別の交互作用 ( $F(3, 321) = 14.30, p < .05$ ) において有意であった。交互作用が有意であったことから、単純主効果の検定を行ったところ、「閲覧のみ」の主効果 ( $F(1, 107) = 29.11, p < .001$ ) が有意であり、男性の平均評定値は女性の同値よりも有意に低かった。また、「他愛もない会話」の主効果 ( $F(1, 107) = 7.42, p < .01$ ) が有意であり、男性の平均評定値は女性の同値よりも有意に低かった。

「荷物受取」を分析したところ、関係性の主効果 ( $F(3, 321) = 3.40, p < .05$ )、性別の主効果 ( $F(1, 107) = 7.70, p < .01$ ) 及び関係性×性別の交互作用 ( $F(3, 321) = 6.61, p < .01$ ) において有意であった。交互作用が有意であったことから、単純主効果の検定を行ったところ、「閲覧のみ」の主効果 ( $F(1, 107) = 23.43, p < .001$ ) が有意であり、男性の平均評定値は女性の同値よ

Table3 男女別のSNS上における関係性毎の闇バイトに対する危惧感の平均評定値 (SD) 男=35 女=74

項目		閲覧のみ	他愛もない会話	個人情報開示	深刻な悩み相談
高収入	男	4.09(1.53)	4.20(1.41)	4.66(1.06)	4.57(1.22)
	女	5.30(.82)	4.92(1.22)	4.68(1.47)	4.35(1.51)
荷物受取	男	4.29(1.54)	4.49(1.22)	4.60(1.26)	4.46(1.20)
	女	5.39(.84)	5.14(1.09)	5.00(1.19)	4.58(1.44)
加害者	男	4.31(1.38)	4.77(1.21)	4.71(1.30)	4.74(1.09)
	女	5.08(1.24)	5.38(.89)	5.68(.53)	5.64(.67)
被害者	男	4.31(1.45)	5.00(1.00)	4.63(1.31)	4.69(1.18)
	女	4.82(1.20)	5.19(1.04)	5.55(.68)	5.60(.68)

りも有意に低かった。また、「他愛もない会話」の主効果 ( $F(1, 107) = 7.80, p < .01$ ) が有意であり、男性の平均評定値は女性の同値よりも有意に低かった。

「加害者」を分析したところ、関係性の主効果 ( $F(3, 321) = 11.36, p < .001$ ) 及び性別の主効果 ( $F(1, 107) = 22.95, p < .001$ ) において有意であった。関係性×性別の交互作用 ( $F(3, 321) = 1.26, n.s.$ ) において有意な差は見られなかった。

「被害者」を分析したところ、関係性の主効果 ( $F(3, 321) = 13.84, p < .001$ )、性別の主効果 ( $F(1, 107) = 13.16, p < .001$ ) 及び関係性×性別の交互作用 ( $F(3, 321) = 5.89, p < .01$ ) において有意であった。交互作用が有意であったことから、単純主効果の検定を行ったところ、「個人情報開示」の主効果 ( $F(1, 107) = 22.12, p < .001$ ) が有意であり、男性の平均評定値は女性の同値よりも有意に低かった。また、「深刻な悩み相談」の主効果 ( $F(1, 107) = 25.81, p < .001$ ) が有意であり、男性の平均評定値は女性の同値よりも有意に低かった。

以上のことから、「高収入」「荷物受取」という闇バイトへの誘いに対しては、「閲覧のみ」「他愛もない会話」において、男性は女性より危惧感が低かった。一方、女性は、上記関係性において男性より危惧感を抱くと考えられる。また、SNS上の相手が「被害者」と認知した場合は、「個人情報開示」と「深刻な悩み相談」においては、男性は女性よりも危機感が低く、女性は男性よりも危機感を抱くと考えられる。

これらのことから、女性の場合は男性よりも「閲覧のみ」においてさえも闇バイトの誘いに危惧感を抱くと考えられる。

**楽観性尺度の信頼性** 改訂版楽観性尺度の内的一貫性を検討するため、逆転項目の得点を修正した上でクロンバックの  $\alpha$  係数を求めたところ、0.76 と高い値を示した。一方、坂本・田中 (2002) は、同尺度における内的一貫性を検討するため、フィラー項目を削除し、同  $\alpha$  係数を求めたところ、0.62 で十分に高い値ではなかったものの、1 因子解での因子負荷量の平均 (0.58) 及び寄与率 (35.9%)、さらに項目数の少なさを考慮し、内的一貫性は許容範囲であるとした。本研究においても、坂本・田中 (2002) のとおり、逆転項目の得点を修正し、フィラー項目 4 つを削除した合計 6 項目に対して因子分析 (主成分法) を実施したところ、1 因子解での因子負荷量の平均は 0.63 及び寄与率は 39.4% といずれも先行研究より高い値を示した。 $\alpha$  係数を求めたところ、0.69 と十分に高い値ではなかったものの、本結果は先行研究の同  $\alpha$  係数よりも高い値を示した。加えて、高本・服部 (2015) が「心理学研究」「教育心理学研究」「社会心理学研究」等 6 誌の心理尺度作成に関する査読論文 167 本のうち下位因子における同  $\alpha$  係数が 0.60 から 0.69 を示している論文が 10.6% であったことを明らかにしている。よって、本結果は、先行研究の結果と相違なく、内的一貫性を許容範囲内にあるものと考えられることから、これ以降の同尺度は、フィラー項目を削除した 6 項目で分析することとした。

**SNS 上の闇バイトに対する危惧感等と楽観性との関係** 大学生における SNS 上の関係性によ

Table4 楽観性高低群のSNS上における関係性毎の闇バイトに対する危惧感の平均評定値 (*SD*) 低=57 高=52

項目		閲覧のみ	他愛もない会話	個人情報開示	深刻な悩み相談
高収入	低	5.04(1.15)	4.79(1.29)	4.68(1.47)	4.49(1.50)
	高	4.77(1.31)	4.58(1.36)	4.65(1.22)	4.35(1.34)
荷物受取	低	5.21(1.15)	5.02(1.09)	5.05(1.20)	4.54(1.52)
	高	4.85(1.29)	4.83(1.25)	4.67(1.23)	4.54(1.18)
加害者	低	4.98(1.19)	5.37(.88)	5.61(.70)	5.49(.85)
	高	4.67(1.47)	4.98(1.16)	5.10(1.13)	5.19(.99)
被害者	低	4.81(1.13)	5.26(.92)	5.49(.78)	5.46(.76)
	高	4.50(1.48)	4.98(1.13)	5.00(1.24)	5.13(1.14)

る闇バイトに対する危惧感等と楽観性との関係を明らかにするため、4つの関係性（閲覧のみ、他愛もない会話、個人情報開示、深刻な悩み相談）×楽観性（低群、高群）の2要因混合計画の分散分析を行った。楽観性の平均評定値は17.15 ( $SD = 4.30$ )であったことから、同値を境に低群及び高群に分類した<sup>1</sup>。なお、それらの結果の平均評定値は、Table4に示す。

「高収入」を分析したところ、関係性の主効果 ( $F(3, 321) = 5.28, p < .01$ )において有意であった。楽観性の主効果 ( $F(1, 107) = .66, n.s.$ )及び関係性×楽観性の交互作用 ( $F(3, 321) = .35, n.s.$ )において有意な差は見られなかった。

「荷物受取」を分析したところ、関係性の主効果 ( $F(3, 321) = 7.29, p < .001$ )において有意であった。楽観性の主効果 ( $F(1, 107) = 1.42, n.s.$ )及び関係性×楽観性の交互作用 ( $F(3, 321) = 1.28, n.s.$ )において有意な差は見られなかった。

「加害者」を分析したところ、関係性の主効果 ( $F(3, 321) = 14.19, p < .001$ )及び楽観性の主効果 ( $F(1, 107) = 4.98, p < .05$ )において有意であった。関係性×楽観性の交互作用 ( $F(3, 321) = .02, n.s.$ )において有意な差は見られなかった。楽観性の主効果が有意であったことからBonferroni法による多重比較を行ったところ、「個人情報開示」において楽観性高群が回答した平均評定値は低群の同値よりも5%水準で有意に低かった。

「被害者」を分析したところ、関係性の主効果 ( $F(3, 321) = 17.68, p < .001$ )及び楽観性の主効果 ( $F(1, 107) = 4.27, p < .05$ )において有意であった。関係性×楽観性の交互作用 ( $F(3, 321) = .47, n.s.$ )において有意な差は見られなかった。楽観性の主効果が有意であったことからBonferroni法による多重比較を行ったところ、「個人情報開示」において楽観性高群が回答した平均評定値は低群の同値よりも5%水準で有意に低かった。

<sup>1</sup>楽観性の低群及び高群の平均評定値は13.84 ( $SD = 2.56$ )及び20.77 ( $SD = 2.53$ )であり、両群の得点の等分散性についてLevene検定を行い、分散の大きさに有意差が認められなかったため ( $F(107) = .02, n.s.$ )、等分散を仮定した対応のないt検定を行った ( $t(107) = 14.18, p < .001$ )。

以上のことから、「高収入」「荷物受取」という闇バイトへの誘いに対しては、楽観性尺度得点が低い群と高い群における差異は見られなかった。しかし、SNS 上の相手が「加害者」及び「被害者」だと認知した場合は、「個人情報開示」という関係性において、楽観性が低い者は、高い者より危機感を抱くと考えられる。

## 総合考察

### 大学生における SNS 上の自己開示と闇バイトへの危惧感等

本研究においては、自己開示の観点から SNS 上の関係性について「閲覧のみ」「他愛もない会話」「個人情報開示」「深刻な悩み相談」を想定した。渡邊（2017）は、大学生の対面時と SNS 上における自己開示の関係性について、上位は趣味や休日などの当たり障りのない会話、それ以降は「知的関心」「価値観」「生きがい」「服装」など対面時と SNS 時共に上位 15 項目はほとんど一致したことを明らかにした。「異性関係」「友人関係」に関する「悩み」は、対面時 9 位と 16 位であるものの、SNS 上では 28 位と 23 位、さらに「人生における虚しさや不安」という深刻な悩みについては SNS 時のみ上位 20 項目内で、SNS 上において自己開示しやすいことが示唆された。また、三上（2015）による大学生の SNS 上における自己開示に関する調査からは、Facebook においては 9 割以上が実名利用で、「ネット上でのみ付き合いがある友人」に対しても 12.3% の者が個人情報を公開している実態を明らかにした。これらのことから、本研究における自己開示の想定は、「他愛もない会話」は「当たり障りのない趣味の開示」であり先の調査の上位に該当し、「個人情報開示」は「知的関心」「価値観」「生きがい」「服装」等の開示、「深刻な悩み相談」は「悩み」等に該当し、大学生が SNS 上において自己開示する内容と言える。

自己開示をするということは、Duck（1991, 仁平監訳 1995）によると、「それほどまでに相手を信じているということを示している～略～内的自己について話せば話すほど、弱みを見せることになり、したがって相手の誠実さを確信していることを示すことになるだろう」と絶大な信頼を寄せた相手であるために自己開示ができる旨言及している。さらに、安藤（1990）は、開示者にとっては自己開示そのものがカタルシスや自己明確化を促進し、受け手からのフィードバックによって社会的妥当性が達成でき、受け手にとっても開示者から好意や信頼を受けていると推測でき、相互に報酬的な体験となり返報性の機能と理解することが妥当である旨指摘している。和田（2016）においても、社会的浸透理論から、比較的個人的でない情報を開示する表面的な交換から始まり、相互作用も報酬的になるだろうと思えば、自分自身について親密で情緒的で詳細な情報をますます開示する親密な自己開示の交換という対人関係の進展から返報性が伴っていることを指摘している。加えて、古川（2008）は、SNS 上において

二者関係が親密になっていくに従って許容される開示レベルが上がり、返報性により相手も同等の情報を開示する旨指摘し、相手の開示情報の真偽や個人情報入手のための悪用についても懸念している

本研究においては、調査対象者が SNS 上においてその相手に自己開示をしている想定であった。「高収入」「荷物受取」という闇バイトの誘いに対する危惧感は、「深刻な悩み相談」をするほど自己開示の関係性が進展すると、他の浅い関係性より有意に危惧感が低くなるという結果であった。「深刻な悩み相談」とは、調査対象者がその相手に対しては、自己開示と返報性から絶大なる信頼を寄せた親密な関係相手と考えられる。つまり、本調査結果から SNS 上の相手に対して、絶大なる信頼を寄せている場合は闇バイトへの危惧感が低くなることが明らかになった。

一方、SNS 上の相手が闇バイトの加害者及び被害者だと認知した場合の危機感については、「閲覧のみ」が、他の関係性より、危機感を持ちにくいことが明らかとなった。この結果は、「他愛もない会話」「個人情報開示」「深刻な悩み相談」という少しでも自己開示をした場合は、危機感をより抱くととらえられる。つまり、自己開示をするか否かが危機感を抱く境界となると考えられる。

#### 性別による闇バイトに対する危惧感等

性別における差異については、「高収入」「荷物受取」という闇バイトの誘いに対する危惧感は、男性が女性より「閲覧のみ」「他愛もない会話」において低い結果であった。つまり、女性は男性より SNS 上の自己開示の関係性が浅い段階から闇バイトを危惧すると考えられる。加えて、SNS 上の相手が被害者と認知した場合は、女性は男性よりも「個人情報開示」と「深刻な悩み相談」という深い関係性においては、危機感を抱くと考えられる。法務総合研究所(2023)によると、特殊詐欺で有罪になった男女比は男性 393 人、女性 8 人と女性が全体の 2%であった。つまり、本調査結果の女性が男性よりも SNS 上の関係性が浅い段階から闇バイトに対して危惧していることが、上記有罪者の男女比の一要因ではないかと考えられる。

しかし、女性の有罪者は男性の 2%のみではあるが、存在している。高橋ら(2025)によると女性の特殊詐欺事犯者の犯行動機の特徴は「SNS の勧誘」の多さであるとしている。女性が闇バイトに加担する一要因は、「深刻な悩み相談」など親密な関係性からの勧誘になれば女性であっても男性と同じように危惧感が減少することではないかと考えられ、その結果、加担していくことが唆される。これは SNS 上の関係性においては、特に留意すべき事項と考えられる。

### 楽観性による闇バイトに対する危惧感等

楽観性については、「高収入」「荷物受取」という闇バイトの誘いに対する危惧感における統計的に有意な差は見られなかった。SNS上の相手が「加害者」及び「被害者」と認知した場合の危機感、楽観性高群が低群よりも「個人情報開示」において低いことが明らかとなった。つまり、SNS上の相手が「加害者」及び「被害者」と認知した場合は、「個人情報開示」という関係性のみで、楽観性が低い者は、高い者より危機感をより抱くと考えられる。これは、楽観性が高い場合は、同世代・同性の一般的な他者と比較して犯罪被害に遭う確率は低いと認知しやすく、自己のリスクを楽観視する傾向（木村，2024）の影響と考えられる。よって、特殊詐欺加害者が足抜けさせないように個人情報を入手する手口について楽観性低群は、十分熟知し、かつ、考慮した結果ではないかと考えられる。

一方、闇バイトの手口とも考えられる「高収入」「荷物受取」という誘いにおいては、楽観性との関連は見られなかった。この点については、楽観性尺度の文言を修正したことも考慮する必要がある。加えて、山本他（2020）は、SNS利用におけるリスク認知について大学生の第三者効果の要因としてステレオタイプの認知及び認知的熟慮性等との関連を明らかにした。これらの結果からも楽観性に加えた上記要因の検討が必要と考えられる。

### 限界及び今後の課題

本研究の調査対象者が大学生であったことから、倫理的配慮として実際に闇バイトに加担した者又は加担しようとした者については調査していない。従って、本研究においては、闇バイトに加担する者の心理について直接的に扱うことはできず、間接的に言及できる側面を有する。

また、実際、加害者側が大学生等の若年層に対して、どのような文言によりSNS上において信頼を得て、個人情報を開示させ、さらに深刻な悩みを相談できるような関係性を構築するのかが明らかにすることが重要である。しかし、本研究の場面想定においては、その詳細な検討がなされていないことが課題であり、限界でもある。

安倍（1978）は、詐欺の手口について加害者が被害者を誤認させ被害者自らが犯罪行為を行うこと、加えてこれら犯罪を抑制する第三者においても誤認し、犯罪行為に加担してしまう旨指摘している。実際の闇バイトリクルーターは、メッセージアプリで信頼関係を構築した相手を、秘匿性の高い通話に誘導するという。そして「傾聴して悩みや弱みを聞き出す」「感情を言語化して安心させる」などのマニュアルに基づき、「相談とかのってあげるとホイホイついてくる」「この仕事、俺もやってんだけど一緒にやらない」「悩みをひたすら聞いて、おだてて。そうすると引っ掛かる」と加担させるための周到な手口を持っていることを明かしている（NHK，2025）。本研究においては、通話における調査は実施していない。しかし、本研究に

より、通話の前段階と推察される SNS 上における闇バイトの誘いに対する危惧感は、「深刻な悩み相談」ができるほど親密な関係になると、他の関係性より低くなることが明らかとなった。つまり、先のリクルーターからの通話への誘いに応じやすくなる一要因を明らかにしたと言える。よって、この危惧感の減少がどのように誤認という心理と関連し、大学生が闇バイトに加担、つまり加害者となるのかについて明らかにすることが今後の課題である。

加えて、Chen et al. (2024) は、ソーシャルメディアの閲覧など一対多のオンラインコミュニケーションが日本の若年層の孤独感を増加させる一方、メッセージの直接的なやり取りなど一対一のオンラインコミュニケーションが幸福感を増加させることを明らかにした。本研究結果からは、「閲覧のみ」以外は、一対一のコミュニケーションと考えられ、特に「深刻な悩み相談」は、対人関係の進展における親密な関係であることから、闇バイトの誘いに対する危惧感が減少した。つまり、親密かつ信頼を寄せたリクルーターとの一対一のコミュニケーションとなるため、この闇バイトへの誘いに対する危惧感の減少には、幸福感が関連しているのではないかと推察される。よって、本邦の大学生等の若年層における SNS 上における特徴の一つである幸福感を含めた関連について更なる実証的検証が今後の課題である。

## 提言

大学生においては、SNS 上で自己開示した相手が闇バイトの加害者及び被害者と認知した場合は、危機感を抱くことが明らかとなった。また、楽観性が低い者は高い者よりも「個人情報開示」の関係性において危機感を強く抱くことが明らかとなった。これら SNS 上における個人情報の管理について Blank et al (2015) は、18 歳から 24 歳は 77.4%、45 歳以上になると 50%代というように、若年層は年配層よりも SNS 上におけるプライバシーをコントロールしていることを明らかにしている。これらのことから、大学生等の若年層は本研究結果においても自己開示と闇バイトとの関係性を十分理解していると考えられる。上記は、政府主導により各関係省庁が一丸となって SNS 上の相手に個人情報を伝えない旨の防止策の広報啓発及び情報リテラシー教育が効果的に機能しているのではないかと考えられる。

しかし、本研究結果から、闇バイトへの危惧感は、SNS 上において親密な関係になると減少すると言えよう。よって、若年層の心理として、SNS 上で親密な関係性に陥ると、誰もが闇バイトへの危惧感が減少するという心理を教育すべきであろう。加えて、絶大なる信頼を寄せている相手からの誘いであると換言できよう。そのため、政府等が啓発している「遭ったことのない知人」という表現の他に、

「SNS 上で信頼している相手」

「SNS 上で悩みを相談している相手」

が闇バイトの加害者である旨の文言を付加することを検討すべきではなかろうか。若年層にとっては、これらの心理状態を把握することによって、事前に闇バイトへの誘いと気がつき、もし危機的状態に陥った際には、心理的混乱が軽減され、彼らを取り巻く友人、家族、先生及び警察等に相談するなど適切な対処行動に結びつくことが期待できるためである。

## 付記

本稿は、闇バイトに大学生等の若年層が加害者からだまされるなどし、やむを得ず加担してしまうのではないかとという青少年保護の観点から検討した。しかし、少年院在院の闇バイト経験者は、闇バイトが犯罪となるかもしれないという認識をもっていた者が約79%であった（浜井, 2025）。つまり、闇バイトが犯罪又は触法行為に該当すると認識しながら加担しているととらえられ、若年層の規範意識が課題であろう（桐生, 2024）。加えて、闇バイトという犯罪は、被害者等にとっては筆舌に尽くしがたい身体、経済そして心理的被害を与えてしまう。この事実について、若年層は知る余地もない。よって、若年層に対しては、対人規範（「人を殴ることは悪いことだ」等）及び犯罪規範（「犯罪は許せない」など）の意識が受講後に高くなる犯罪被害者等の心情を理解する教育（浅野, 2010, 2015）を積極的に取り入れる必要がある。

## 謝辞

本研究は、2025年3月に宮城学院女子大学学芸学部心理行動科学科を卒業した赤沼颯希氏・石川梨乃氏が、闇バイトの抑止に寄与するために、卒業研究として現代の大学生のSNS利用の実態を鑑み、ゼミ生と共に検討し、取りまとめた資料について筆者が解析し、執筆したものである。両氏に対しては、ここに記して心より感謝申し上げたい。

## 引用文献

- 安倍淳吉（1978）. 犯罪の社会心理学 新曜社
- 安藤清志（1990）. 「自己の姿の表出」の段階 中村陽吉（編）「自己過程」の社会心理学（pp143-198）東京大学出版会
- 浅野晴哉（2010）. 中学生の死生観の変化に関する研究Ⅱ「命の大切さを学ぶ教室」の質問紙尺度の作成と効果測定 日本心理臨床学会第29回大会発表論文集, 322.
- 浅野晴哉（2015）. 東日本大震災被災県における中学生の命の大切さに関する態度の変化 心理臨床学研究, 33（4）. 417-422.
- Blank, G., Bolsover, G., and Dubois, E. (2015). A New Privacy Paradox: Young people and privacy on social network sites. Global Cyber Security Capacity Center: Draft Working Paper. University of Oxford [https://www.academia.edu/7031484/A\\_New\\_Privacy\\_Paradox\\_Young\\_people\\_and\\_privacy\\_on\\_social\\_network\\_sites](https://www.academia.edu/7031484/A_New_Privacy_Paradox_Young_people_and_privacy_on_social_network_sites)
- Chen, Yijun., Zhang, Xiaochu., and Akaishi, Rei. (2024). "Exploring Digital Use, Happiness, and Loneliness in Japan with the Experience Sampling Method", npj Mental Health Research, nature.com <https://doi.org/10.1038/s44184-024-00108-4>

- Duck, S.W. (1991). Friends, for life: The psychology of personal relationships. Brighton: Harvester Press. (仁平義明 (監訳) (1995). フレンドーズスキル社会の人間関係学— 福村出版)
- 古川良治 (2008). インターネットにおける自己開示研究の方向性に関する考察 成城大学社会イノベーション研究, 3(2), 1-18. KJ00004937177 (2).pdf
- 浜井浩一 (2025). 少年院在院者を対象とした調査から見えてきた「闇バイト」の実態: 仲間としての不良集団の衰退と反社会的ビジネスモデルの台頭 犯罪心理学研究, 62(特別号), 32-33.
- 犯罪対策閣僚会議 (2019). オレオレ詐欺等対策プラン  
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/hanzai/kettei/190625/honbun.pdf>
- 犯罪対策閣僚会議 (2023). SNS で実行犯を募集する手口による強盗や特殊詐欺事案に関する緊急対策プラン <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/hanzai/kettei/230317/honbun-1.pdf>
- 犯罪対策閣僚会議 (2024a). 国民を詐欺から守るための総合対策 <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/hanzai/kettei/240618/honbun.pdf>
- 犯罪対策閣僚会議 (2024b). いわゆる「闇バイト」による強盗事件等から国民の生命・財産を守るための緊急対策 [https://www.kantei.go.jp/jp/singi/hanzai/kettei/241217/kinkyu\\_taisaku.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/hanzai/kettei/241217/kinkyu_taisaku.pdf)
- 原田知佳・土屋耕治 (2025). 社会的孤立・孤独感・一般的信頼は特殊詐欺のリスク要因となり得るか—オレオレ詐欺被害者と看破者との比較検証 犯罪心理学研究, 62(2), 1-11.
- 星周一郎 (2023). SNS 上の「闇バイト募集」への刑事法的対応の一考察—刑事司法は犯罪不安を解消できるか— 法学会雑誌, 64(1), 145-167. 20006-064(1)-005 (1).pdf
- 法務総合研究所 (2023). 特殊詐欺事犯者に対する研究 研究部報告 64  
[https://www.moj.go.jp/housouken/housouken03\\_00119.html](https://www.moj.go.jp/housouken/housouken03_00119.html)
- 河北新報 (2024). 特殊詐欺から学生を守る／県警 県内の大学 20 校と協定 2024 年 4 月 27 日付 河北新報朝刊
- 河北新報 (2025). ミャンマー詐欺拠点に邦人高校生／組織側に周到的手引き／未成年へのわな 浮き彫り「パソコンの特技を生かせる」「衣食住付きの簡単な仕事」。日本人の高校生 2 人が甘い言葉に誘われ、内戦が続くミャンマーの詐欺 2025 年 3 月 13 日 河北新報朝刊
- 警察庁 (2018). オレオレ詐欺被害者等調査の概要について  
[https://www.npa.go.jp/bureau/criminal/souni/tokusyusagi/higaisyatyouosa\\_siryou2018.pdf](https://www.npa.go.jp/bureau/criminal/souni/tokusyusagi/higaisyatyouosa_siryou2018.pdf)
- 警察庁 (2024). 令和 6 年版 警察白書 <https://www.npa.go.jp/hakusyo/r06/index.html>
- 警察庁 (2025). 令和 6 年 8 月以降に発生した一連の強盗等事件といわゆる「闇バイト」 [https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000986961.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000986961.pdf)
- 木村敦・河合萌華・中嶋凌・山本真菜・岡隆 (2018). 高校生における認知熟慮性と SNS 利用リスクの楽観視との関連 日本教育工学会論文誌, 42(S), 025-028.
- 木村敦・齋藤知範・山根由子・島田貴仁 (2023). 楽観バイアスが高齢者の特殊詐欺対策行動に及ぼす影響 心理学研究, 94 (2), 120-128. <https://doi.org/10.4992/jjpsy.94.21053>
- 木村敦 (2024). 高齢者の特殊詐欺被害に関連する心理特性: 楽観バイアスを中心に 越智啓太 (編大) 桐生正幸・原田知佳・島田貴仁 (編) 特殊詐欺の心理学 (pp.38-51) 誠信書房
- 桐生正幸 (2023). 特殊詐欺被害者に関する基礎分析 東洋大学社会学部紀要, 60(2), 103-112.
- 桐生正幸 (2024). 特殊詐欺対策における AI と生理心理学の活用 越智啓太 (編大) 桐生正幸・原田知佳・島田貴仁 (編) 特殊詐欺の心理学 (pp.156-171) 誠信書房
- 宮城学院女子大学 (2024). 社会連携 宮城県警と連携協定を締結しました  
<https://news.mgu.ac.jp/support/news/3057.html>
- 宮城学院女子大学 (2025). キャンパス 4 月 23 日 (水) に学友会春季総会・学長賞表彰等が開催されました <https://news.mgu.ac.jp/campus/news/4536.html>
- 三上俊治 (2015). SNS における自己開示とプライバシー・パラドックス 東洋大学社会学部紀要, 53 (1), 65-77. shakaigakubukiyo53-1\_065-077 (1).pdf
- NHK (2025). 急増 闇バイト・校内暴力 背景に何が? 2025 年 4 月 16 日  
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20250416/k10014780551000.html>
- 坂本真士・田中江里子 (2002). 改訂版楽観性尺度 (the revised life orientation test) の日本語版の検討 健康心理学研究, 15, 59-63.

- 高橋典子・高野洋一・星秀和（2025）. 女性の特種詐欺事犯者に関する考察 犯罪心理学研究, 62 特別号, 130-131.
- 高本真寛・服部環（2015）. 国内の心理尺度作成論文における信頼性係数の利用動向 心理学評論, 58, 220-235.
- Weinstein, N. D. (1980). Unrealistic optimism about future life events. *Journal of Personality and Social Psychology*, 39, 806-820. <https://www.academia.edu/download/94116653/download.pdf>
- 読売新聞（2024）. 「闇バイト」強盗の逮捕者 56 人、20 代以下が 8 割…「指示役」は身元隠し若者を「捨て駒」に 2024 年 12 月 6 日付け 読売新聞オンライン
- 読売新聞（2025）. ティッシュ箱の底に覚醒剤 8 億 1600 万円分 闇バイトで海外貨物が自宅へ「中身は服だと聞いていた」2025 年 7 月 18 日付け 読売新聞オンライン
- 和田実（2016）. より親しくなる 和田実・増田匡裕・柏尾真津子 対人関係の心理学—親密な関係の形成・発展・維持・崩壊—（pp49-62）北大路書房
- 渡邊菜保子（2017）. 青年期の SNS 利用における自己開示とその心理的要因 東京国際大学紀要 臨床心理学研究, 79-95. [http://hnbsgm.com/about/research\\_promotion/kiyou/pdf/15\\_clinicalpsychology\\_5.pdf](http://hnbsgm.com/about/research_promotion/kiyou/pdf/15_clinicalpsychology_5.pdf)
- 山本真菜・宮下達哉・堀川佑惟・木村敦・岡隆（2020）. SNS 利用におけるリスク認知の第三者効果とその関連要因の検討 日本大学文理学部人文科学研究所研究紀要 99, pp.141-153. 099\_P141 (3). pdf

## Appendix

### 楽観性尺度

No	質問内容
1	私はものごとが自分の思い通りにいくとはほとんど思っていない（逆転項目）
2	ふだん私はもっともよいことが起こると期待している
3	<u>大概</u> 、私は悪いことよりも良いことの方が自分の身に起こると思う
4	私は自分の将来についていつも楽観的である
5	私にはたくさんの友人がいる（フィラー項目）
6	忙しくあり続けることは私にとって大切である（フィラー項目）
7	私はたやすくリラックスできる（フィラー項目）
8	良いことが私に起こるなんてほとんどあてにしていない（逆転項目）
9	何か私にとってうまくいかなくなる可能性があれば、 <u>そうなるだろう</u> （逆転項目）
10	私は非常にたやすくとりみだしてしまうようなことはない（フィラー項目）

## **Intimacy on social networking sites among college students and their apprehension about “black-market jobs”.**

Haruya Asano

This study examined the relationship between sex and optimism in relation to self-disclosure, as well as the sense of apprehension toward a black-market part-time job invitation, across four types of relationships with an SNS partner (“browsing only,” “casual conversation,” “disclosing personal information,” and “consulting on serious concerns”) among college students. The results revealed that apprehension about the lure of black-market jobs offering “high income” or requesting “receiving packages” was lower when the relationship was close enough for “consulting on serious concerns,” compared with more distant relationships. Women’s apprehension was higher than men’s for shallow relationships such as “browsing only” and “casual conversation,” but there was no difference for deeper relationships such as “disclosing personal information” and “consulting on serious concerns.” On the other hand, no association with optimism was found. In sum, apprehension about invitations to take a black-market part-time job decreases when the SNS relationship is close enough to allow discussion of personal problems. In other words, young people, such as college students, may naturally feel less apprehensive about such invitations when they come from someone they trust on SNS, which may increase their susceptibility to involvement in these activities. Therefore, as a preventive measure, psychological education that incorporates the dynamics of interpersonal relationships on SNS is urgently needed.

Keywords: college students, black-market jobs , relationships on social networking sites, self-disclosure, and apprehension